

令和5年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：資源の有効利用について

【調査の目的】

日本国内では、売れ残りや期限切れの食品、食べ残しなど、本来食べられるにもかかわらず捨てられてしまう「食品ロス（フードロス）」が年間 523 万トン発生しています。これは、国民一人当たりで換算すると、毎日お茶碗 1 杯分（130 g）に近い量を捨てている計算になります。

本県では、この食品ロスの削減のため、平成 28 年度から事業者や県民の皆様と行政が一体となって県民運動として取り組んでいます。

また、海洋プラスチックごみ問題を背景に、本県では、ワンウェイ（使い捨て）プラスチックの使用削減やプラスチック代替品の利用促進などに取り組んでいます。

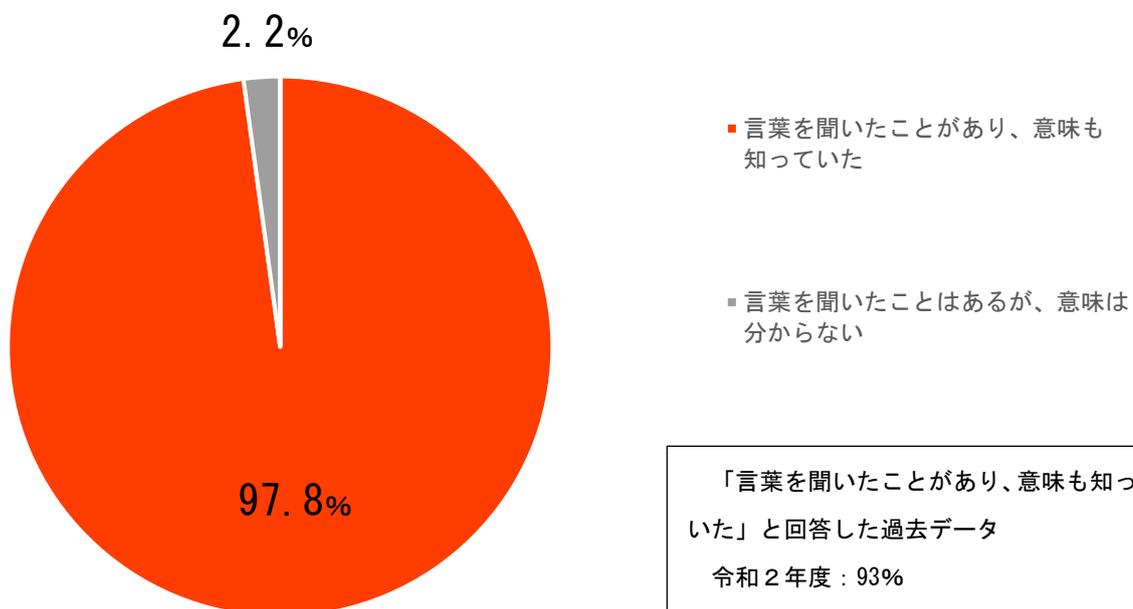
プラスチック代替品の利用促進にあたっては、まず、プラスチック代替品にはどのようなものがあるのか、なぜ環境に優しいのかを知ってもらうことが必要であり、次のステップとして、環境に配慮した商品を選ぶという意識の醸成を図っていく必要があると考えております。

この調査結果は、食品ロス削減やプラスチック代替品に関する今後の行政施策の参考とさせていただきます。

（環境部循環型社会推進課）

問1 「食品ロス（フードロス）」という言葉について聞いたことがありますか。

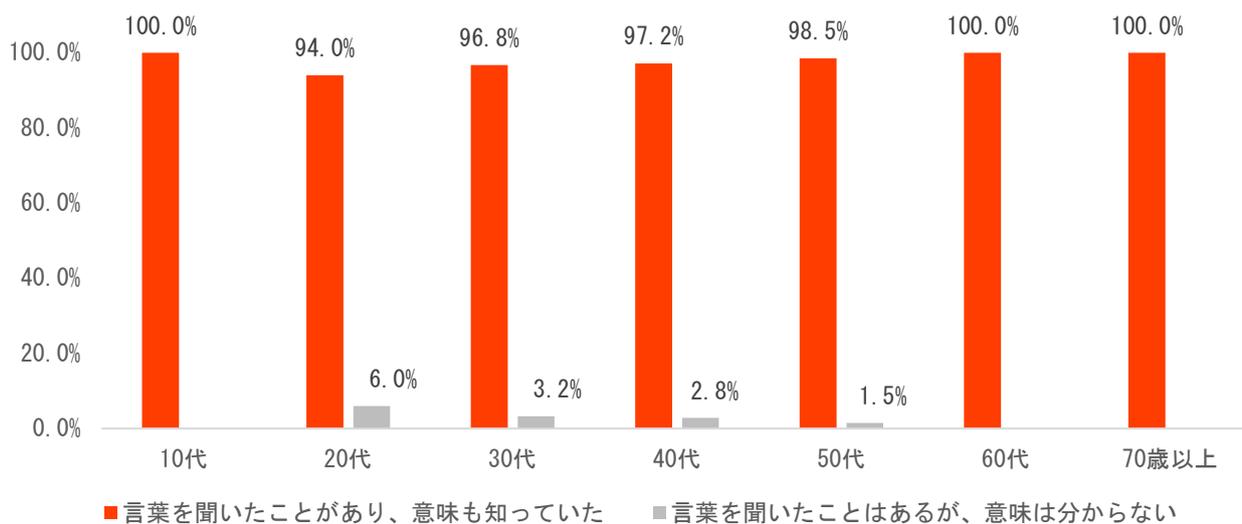
また、その意味を知っていましたか。当てはまるものを一つ選んでください。（回答数：371）



「言葉を聞いたことがあり、意味も知っていた」と回答した過去データ

令和2年度	93%
令和3年度	97.2%
令和4年度	96.2%
令和5年度	97.8%

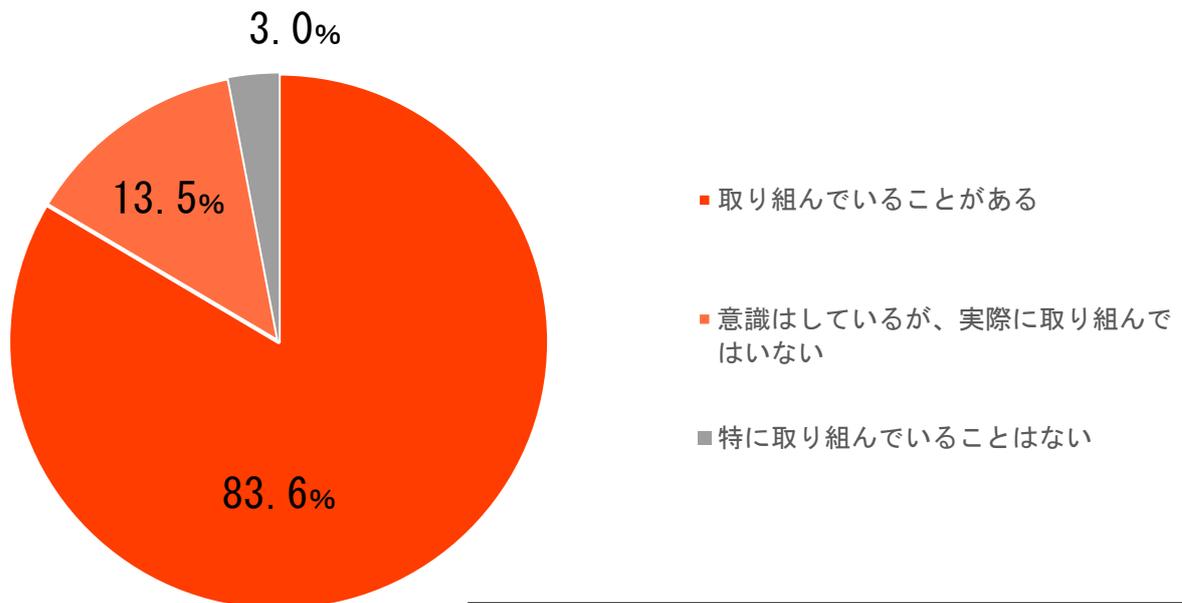
年齢別回答



○「意味も知っていた」と回答した割合は昨年度より上昇し、97.8%となった。

○言葉の意味を知らない割合はどの年代においても非常に小さいが、比較的若年層で高い結果となった。

問2 実生活の中で、食品ロス削減に取り組まれていますか。
 当てはまるものを一つ選んでください。(回答数：371)



「①取り組んでいることがある」	
「②意識はしているが実際に取り組んではいない」過去データ	
令和2年度：	①62% ②29%
令和3年度：	①64.5% ②29.4%
令和4年度：	①64.7% ②29%
令和5年度：	①83.6% ②13.5%

【年齢別回答】(昨年度との比較)

(単位：%)

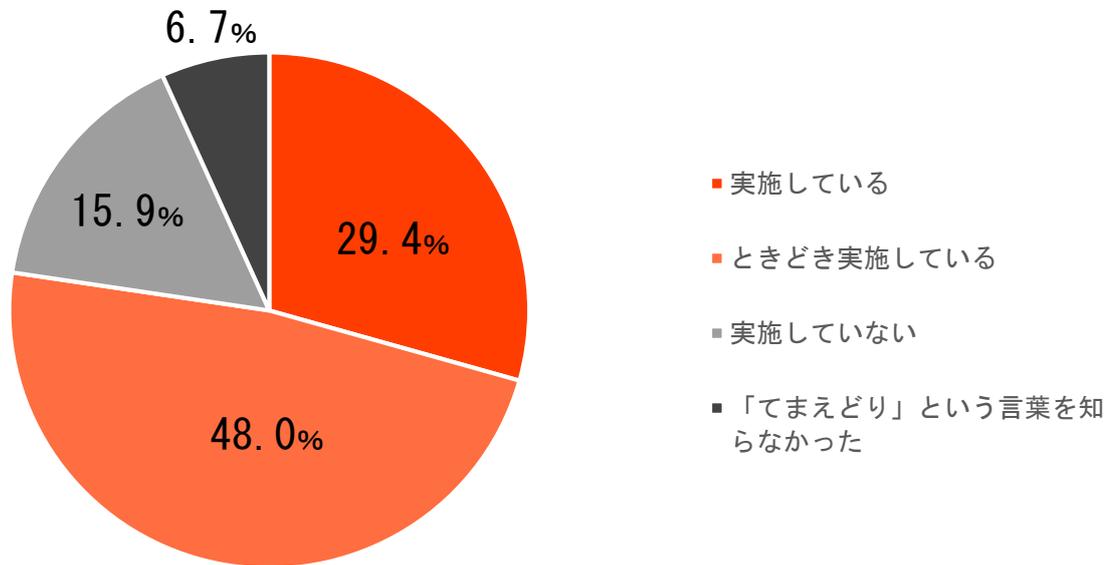
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
取り組んでいる	R4	61.5	59.3	59.2	65.4	64.4	73.3	70.0
	R5	77.8	88.0	79.0	83.1	89.4	85.5	70.0
意識はしているが 取り組んではいない	R4	38.5	35.2	36.6	29.5	32.2	23.3	26.7
	R5	22.2	10.0	16.1	9.9	10.6	12.0	30.0

○「取り組んでいる」と回答した割合は、昨年度から大きく上昇し、83.6%となった。

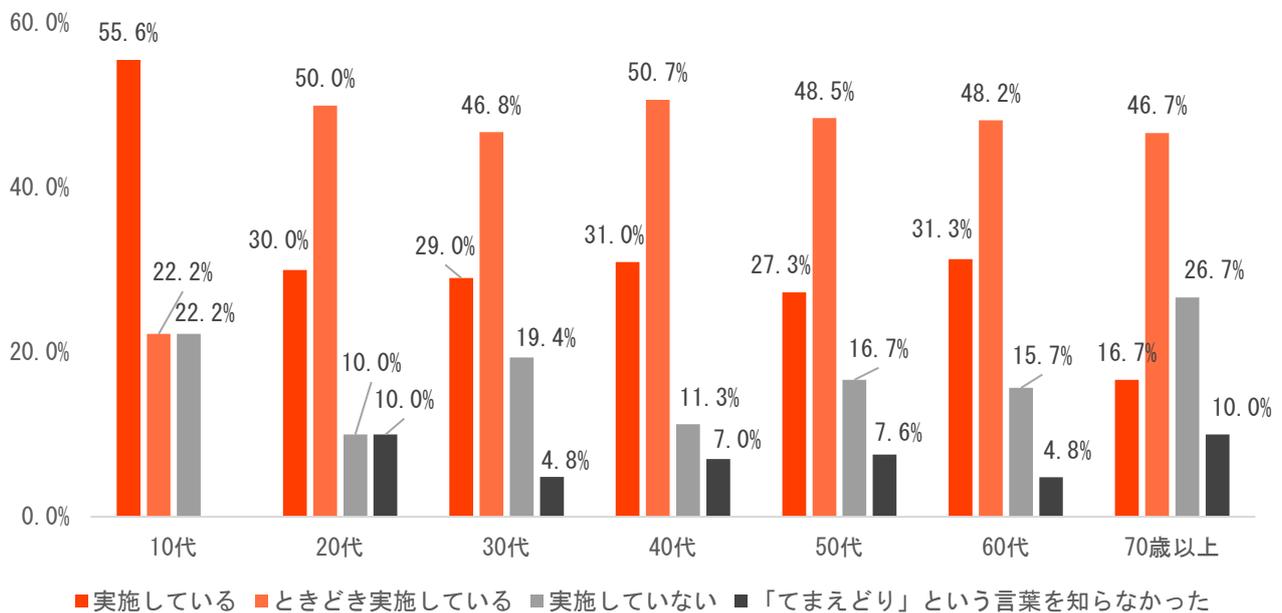
○前年度と比較し、ほぼすべての年代で「取り組んでいる」割合が増加し、「意識はしているが取り組んではいない」割合が減少した。

問3 購入してすぐに食べる場合に、商品棚の手前にある消費・賞味期限の近い商品を積極的に選ぶ行動のことを「てまえどり」と言います。

購入してすぐに食べる場合に「てまえどり」を実施していますか。(回答数：371)



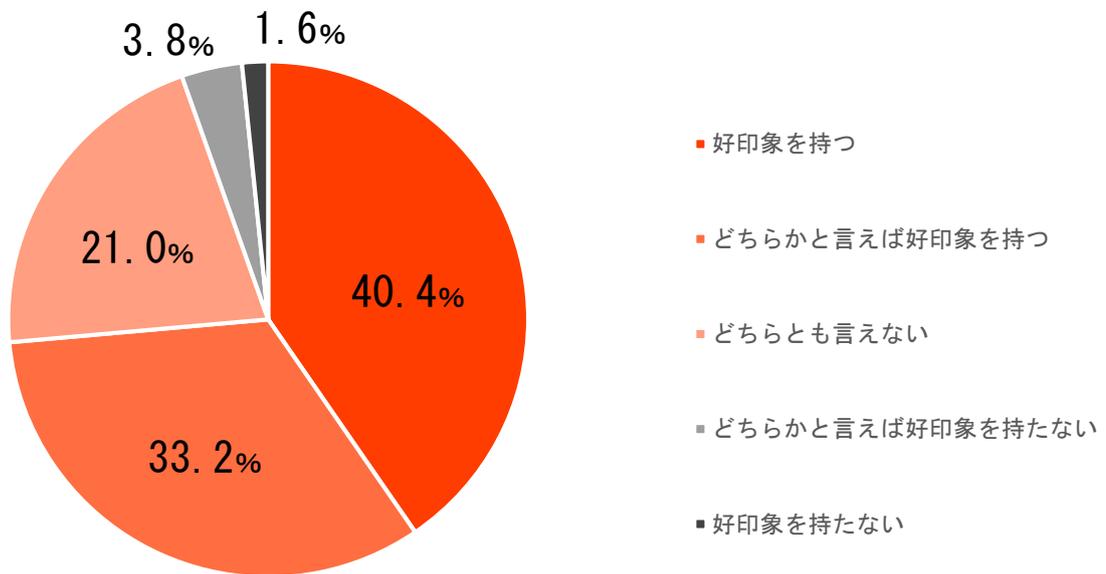
年齢別回答



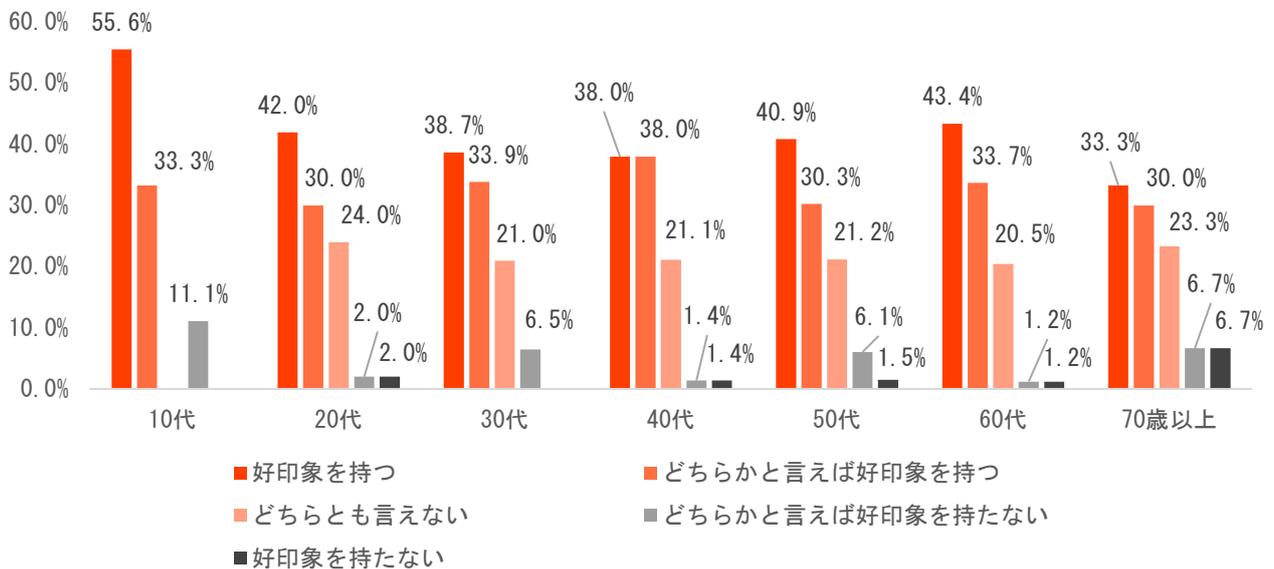
○「てまえどり」を実施している、もしくはときどき実施している人の割合の合計は77.4%となり、4分の3以上の方が意識して「てまえどり」を実施したことがあるという結果となった。

○「てまえどり」という言葉を知らなかった人の割合は6.7%であり、言葉の認知度は高いことが分かる。

問4 食品ロスを削減するために「てまえどり」の呼びかけを行うお店に好印象を持ちますか。
 (回答数：371)

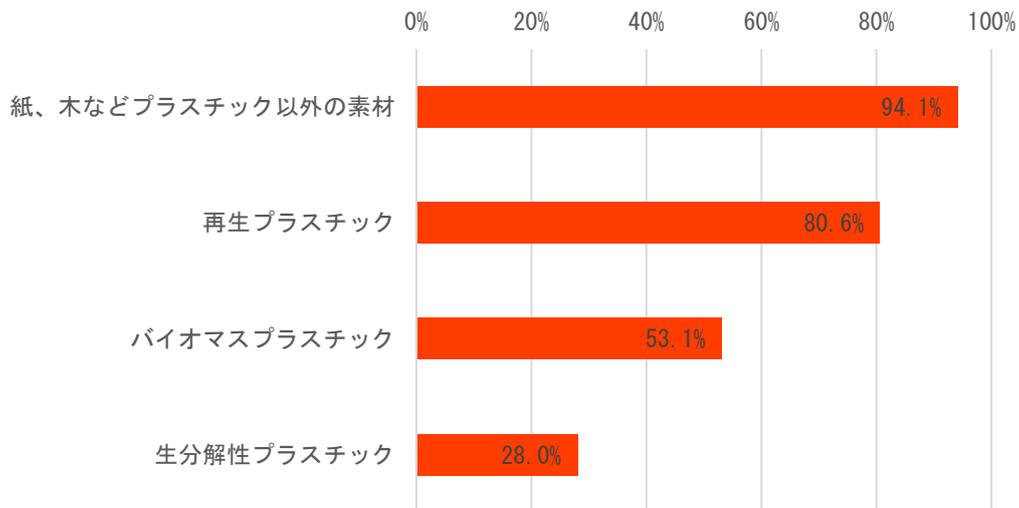


年齢別回答



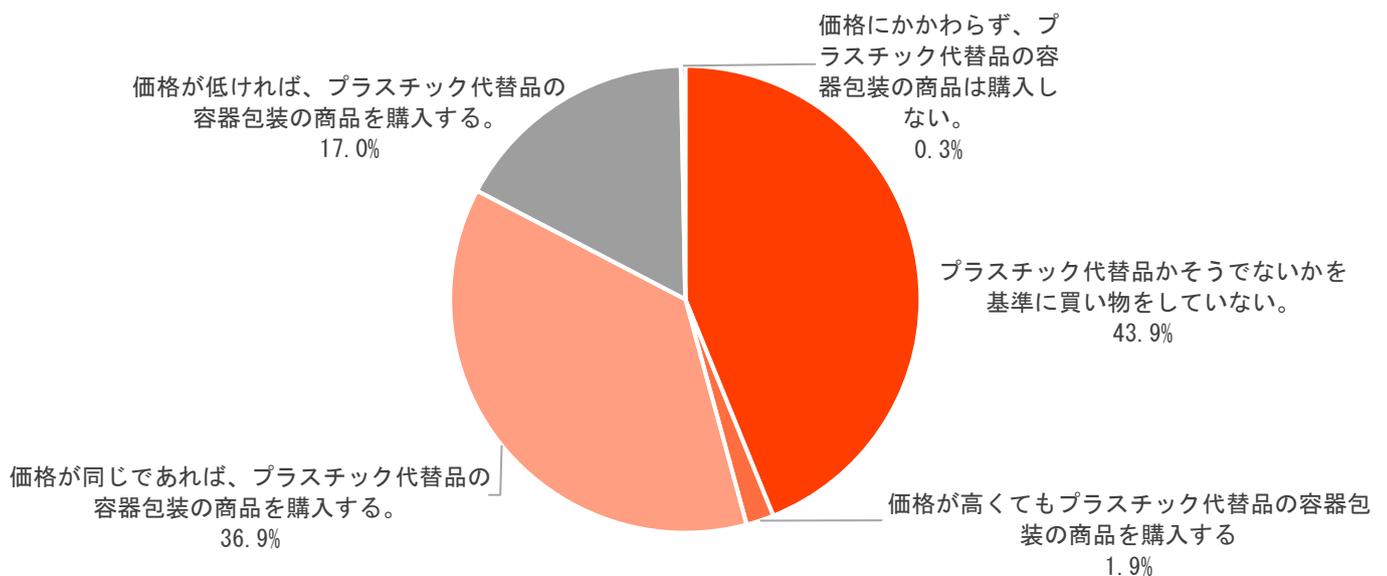
○「好印象を持つ」「どちらかと言えば好印象を持つ」と回答した人の合計は73.6%であり、「てまえどり」の実施に対しては概ね好印象を持たれている。
 ○「どちらとも言えない」との回答が2割程度占めている年代がほとんどであり、「てまえどり」の実施は食品ロスの削減に有効であるという点をより周知していくことが必要である。

問5 次に挙げたプラスチック代替品と呼ばれる環境に配慮した素材を知っていますか。
知っているものを全て選んでください。(回答数：371)



- 紙や木など、身近にある素材については認知度が高い。
- バイオマスや生分解性など、素材の性質に由来した素材については、一定程度認知度されている。

問6 普段の買い物の際、商品自体は同じもので、商品の容器包装が石油から作ったプラスチックでできたものと上記で挙げたプラスチック代替品でできたものがあった場合、プラスチック代替品でできた容器包装の商品を購入する条件について、当てはまるものを一つ選んでください。(回答数：371)

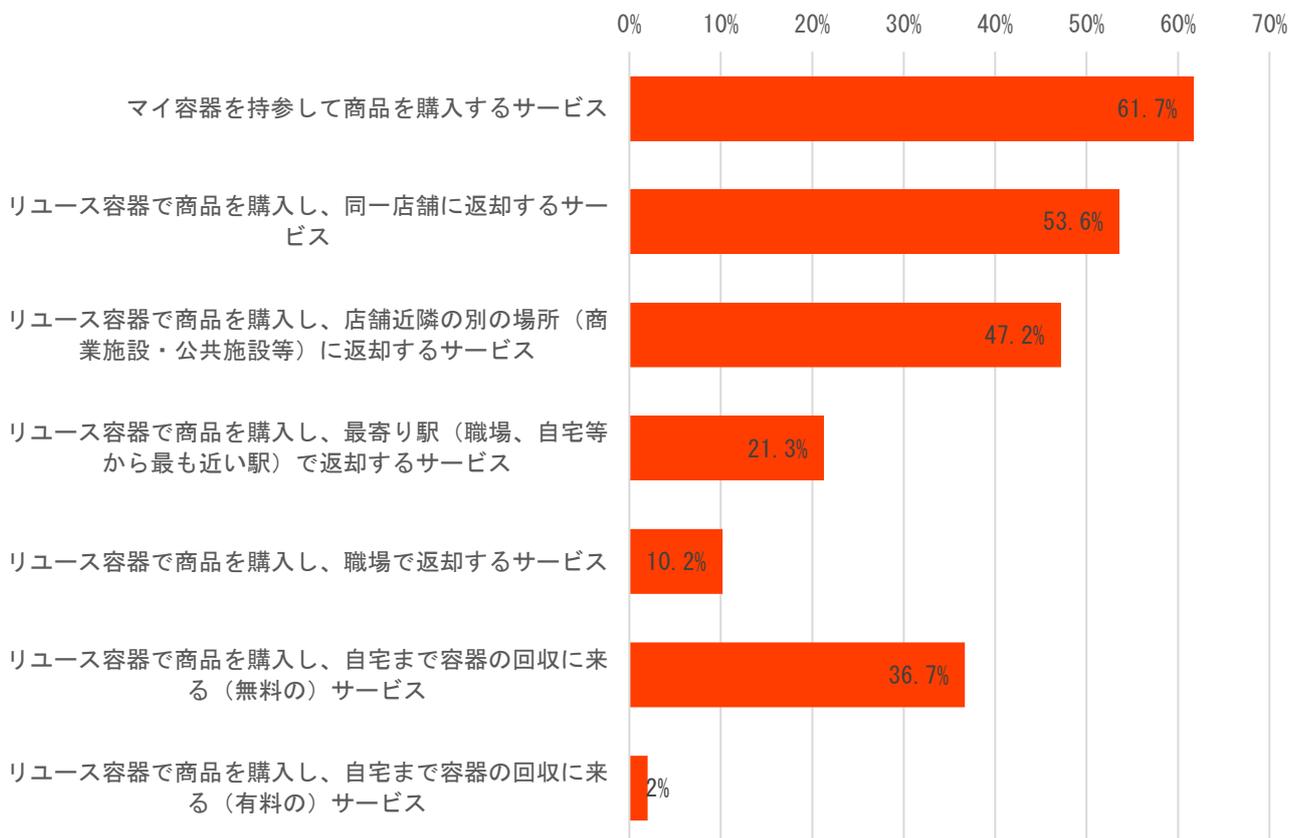


- 「プラスチック代替品かそうでないかを基準に買い物をしていない」という回答が多い。
- 一方で、「価格が同じであれば、プラスチック代替品の容器包装の商品を購入する」とした回答も多いことから、環境に配慮するという意識が高まっているようにみられる。

問7 プラスチックごみ削減に向け、使い捨ての容器に変えてリユース容器*を利用可能な店舗や、マイ容器を持参のうえ量り売りで購入する店舗が、近年改めて注目されています。

そこで、食品や飲料などの商品を購入する際、どのような容器や返却方法であれば利用したいと考えますか。以下のサービスについて、利用したいと思われるものを全て選んでください。(回答数：371)

※本設問においてリユース容器とは、洗浄により繰り返し利用が可能で、返却が必要な容器を指します(マイ容器は除きます)。



○マイ容器を持参して商品を購入するサービスは、返却が必要なリユース容器で商品を購入するサービスに比べ、受け入れられやすい。

○リユース容器で商品を購入するサービスの中でも、返却方法により利用したいと思う人は大きく異なり、「同一店舗に返却する」という方法は最も受け入れられやすい方法で、半数以上の方が利用したいと回答している。